

# 曾於文藝

うたごよみ

## 俳句

### 末吉俳句会

やはらかき風に色添ふ春の苑

古藤 まゆ美

花は咲き鳥は歌ひて句を作る

瀬戸内 紀子

廃線に沿うて満開花並木

西村 セツ

### 大陽俳句会

菜の花の香り懐しき夕べかな

岩重 みどり

よく笑ふ姉妹そろひて青き踏む

福村 よう子

転た寝の夢の中へと春の雷

逆瀬川 節子

## 短歌

### 末吉短歌会

久に逢ふうから集へば過去形の  
堂々巡りの会話が続く

森岡 ちどり

## 題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

咲き満ちしにほひすみれの風に揺る  
逢ひの叶はぬ幼のリボン

長倉 佳津子

眼帯をとれば飛び込む山々の  
グラデーシヨンの青の重なり

宝蔵 弘二

### 大陽短歌会

兵役の日々もありたり生き残り  
九十六歳の春が近づく

米澤 正敬

野兎が草踏みたおしたる道のあり  
飼料畑に棲家を作る

安藤 フヂ子

団塊のじいじばあばを闊歩させ  
シニア料金甘くささやく

西山 美代子

### 財部短歌会

山小屋の朽ち木の匂ひにふと思ふ  
終戦まぢかの命の豪を

井上 澄子

すっぽりと強気寒気の傘の下  
銀世界と化す朝の薩摩路

杉村 リカ

同窓の死を市報に見る令和なり  
コロナ禍生みたるいま家族葬

児玉 次雄

## 薩摩狂句

にがごい会末吉支部

十六で 散つた予科練

桜花 鈴木 一泉

最早桜 厄介なコロナ

パツと散れ 古川 一幹

コロナ奴 桜イベント

また中止 浜田 一好

桜見い 様子マスクじやが

目はギョロっ 桐野 奈世

### 大陽薩摩狂句会

終息らん コロナ五輪が

心配な事 津留 群志

婆ん百寿祝 首相い成い切っ

読ん表彰状 小倉 りんりん

璃花子嬢ん 相当な頑張いの

涙笑顔 境 すやすや

あんほらち 一向進まん

爺が語い 西山 美代子